



(損保版)

第1~4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪府西区本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2160円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2014

シンニチ保険Web

www.shinnihon-ins.co.jp

購読者専用サイトのパスワード

comehere

(2014年12月31日まで)

※「1月」と「7月」に変更します。

「代理店のコミュニケーションのあり方を考える」

日本代協 第4回コンベンション、会員ら約400名参加



コンベンションに先立ち挨拶する岡部会長

「このコンベンションは『消費者』に選ばれる代理店」となるために連続性を持たせたテーマで年一回開催している。東日本大震災を通して代理店

今コンベンションの開催テーマは「代理店のコミュニケーションのあり方を考える」。開催に先立ち挨拶した日本代協の岡部繁樹会長は今年で4回目の開催となるコンベンションの開催趣旨について、次のように述べた。

「このコンベンションは『消費者』に選ばれる代理店」となるために連続性を持たせたテーマで年一回開催している。東日本大震災を通して代理店の価値を考えると、地域における代理店ブランドの作り手、魅力ある企業としての代理店になるための組織作り、と続けてきた。これを受けて4回目となる今回は、代理店の組織内部におけるコミュニケーションのあり方と組織の活性化の関係を向けて、代理店に係わる様々な関係者との間のコミュニケーションのあり方を学ぶこととした。限られた時間のなかで、今回のコンベンションを通して、代理店経営の気づきとなることを何か一つでも感じ取っていただければ幸いです。来次いで、来賓として金融庁監督局保険

組織のコミュニケーションと活性化 基調講演や分科会など2日間

日本代協は11月14日、全国の会員代理店や損保業界関係者が一堂に会する「第4回日本代協コンベンション」を東京・港区のヤクルトホールで開催した。今コンベンションには会員代理店など約400名が参加し、記念式典や代協会員懇談会、基調講演などを催した。翌15日には、パネルディスカッションや講演などを分科会形式で実施した。



金融庁 諏訪園氏

課長の諏訪園健司氏が挨拶。9月に公表した金融モニタリング方針の記載内容についてふれた後、今般の改正保険業法に伴い新たに意向把握、情報提供、態勢整備などを義務づけることとした趣旨について説明。現在、改正作業を行っている最中の監督指針の策定状況については「日本代協をはじめとする保険業界関係団体との意見交換を通じて、保険募集の実務の把握に努めながら改正作業を進めているところだ」と述べた。また、保険募集人の品質向上を求めた諏訪園氏は、損保協会と日本代協が共同で取り組

中崎氏ら三氏が講演 パネルディスカッションも

中崎氏ら三氏が講演。パネルディスカッションも



増島氏

続いて行われた代協会員懇談会では、事前質問をふまえた会員代理店からの意見や要望に代協役員が回答するなど、忌憚のないやり取りがみられた。会員代理店から寄せられた主な質問項目は「組織拡大と強化を図るための損保会社との関係について」「保険会社による代理店の大型化の考え方について」「ネット販売への対応について」



中崎氏

など、日本代協副会長の小出富晴氏を中心に代協役員が、保険会社との意見交換の様子などをふまえて回答した。基調講演では、NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会の理事長で、有明社プレジデント兼代表取締役会長の大棟耕介氏が「現役道化師から学ぶ、組織・社内環境をプラスに変えるコミュニケーション手法」をテーマに講演。



松本氏

翌15日には東京・千代田区の損保会館やホテルアサヒなどで分科会が開かれた。分科会では4つのプログラムが同時進行。増島雅和氏(森・濱田松本法律事務所パートナー弁護士)が「募集制度の変革に伴う代理店のあり方」について、中崎章夫氏(保険ジャーナリスト)



土川氏

「法改正動向を踏まえた保険会社の事業戦略、プロ代理店に期待していること」について、松本一成氏(株)A.I.P代表)が「リスクマネジメント視点からの法人マーケティング開拓」について、それぞれ講演した。また、パネルディスカッションでは、土川尚己氏の司会進行のもと、渡辺健一氏



(左から)絹田氏、渡辺氏、蓑谷氏 (パネルディスカッション)

(株)渡辺総合保険事務所代表)・蓑谷広行氏(ユナイテッド・インシュアランス(株)代表)・絹田翠々英氏(株)ABC代表)の3氏がパネリストとなり、「めざせ、風通しのいい企業風土」をテーマに考察した。



損保協会・堀氏

らでいる損害保険大学課程などを例に挙げ、「日本代協と損保協会が力をあわせて、質の高い保険募集人の育成、保険代理店の研鑽を図ってもらいたい」と期待を示した。続いて挨拶した損保協会専務理事の堀政良氏は、損保協会が取り組んでいる主たる事業の内容

や重点課題への対応状況について述べた後、損害保険大学課程の取り組み状況について説明した。とりわけ、損害保険大学課程を経て付与される上位資格「損害保険トータルプランナー」の登録状況について堀氏は「現在、9149名の損害保険トータルプランナーが誕生しているが、そのうちの約9割は日本代協認定保険代理士からの移行によ

るもので、新たに損害保険トータルプランナーになった募集人はまだ少ない」と述べたうえで、「この制度の魅力を向上させる」とともに、より多くの方にチャレンジしていた

「法改正動向を踏まえた保険会社の事業戦略、プロ代理店に期待していること」について、松本一成氏(株)A.I.P代表)が「リスクマネジメント視点からの法人マーケティング開拓」について、それぞれ講演した。また、パネルディスカッションでは、土川尚己氏の司会進行のもと、渡辺健一氏

「法改正動向を踏まえた保険会社の事業戦略、プロ代理店に期待していること」について、松本一成氏(株)A.I.P代表)が「リスクマネジメント視点からの法人マーケティング開拓」について、それぞれ講演した。また、パネルディスカッションでは、土川尚己氏の司会進行のもと、渡辺健一氏

を代表して挨拶した大阪代協の大島晏氏は「1978年4月に入会して以来、多くの役を務めさせていただき、自身の啓蒙をすることができた」と謝辞を述べた。